

# 『時事直言』 No.1790 2026年3月4日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] [info@chokugen.com](mailto:info@chokugen.com)

[X(旧 twitter)] [t\\_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019) [Youtube] 増田俊男チャンネル/



時事評論家 増田俊男

## イラン戦争は短命

私は米軍・イスラエル軍のイラン攻撃とイランの報復戦争は短期で終わると言ってきたが、現況はイランの湾岸産油諸国攻撃、イスラエルのレバノン空爆などでエスカレートしているところへトランプ大統領が予定より長期化すると述べた為市場は楽観から悲観に変わった。

市場にとって今回の戦争は、短期は買い、長期は売りだからである。

イラン革命防衛隊は昨年6月と今回の空爆で24州のほとんどの基地が破壊され、相当戦力が落ちていると考えられる。

さらに最高指導者ハメネイ師と主な軍指揮官や政権指導者が殺害されたことから指揮系統に混乱が起きている上に弾薬、兵器不足で長期戦は難しいと考えられる。

イランは報復として米軍基地がある湾岸産油諸国を攻撃したが、続かないだろう。

イランはホルムズ海峡を封鎖したが、イランの戦艦は破壊され、やがて米戦艦が商船航行保護の為に出動するので、封鎖は短期間で終わる。

イランの対イスラエル戦闘代理人のヒズボラ、フーシやハマスがイスラエル攻撃をしているがいずれも既に弱体化しているので散発で終わる。

米軍とイスラエル軍のイラン攻撃が始まった2月28日前の原油価格は1バーレル62ドル(WTI)であったがホルムズ海峡封鎖と戦争の長期化予想で77ドルまで上がったが現在は74ドルになっている。

今後日本に入港してくる原油のコストが上がることは無く、輸入業者が今の高値を嫌って62ドルになるまで買い控える間は民間と国に十分過ぎるほどの在庫(民間90日、国245日)があるから今後輸入原油コストが上がることはない。

日本は原油の90%以上を中東に依存しているからさあ大変だと言ってパニックになりニッケイ平均先物はイラン戦争前2月27日の58,710円から3月3日(夜間)は一時53,000円台まで下げたが、終わりは830円安の55,320円であった。

よく考えれば、この戦争が長期化するはずがない、出来ないことが分かるはず。

市場は今日から冷静を取り戻すだろう。

市場とはパニックになって高騰したり、暴落するものである。

市場は人間と同じ「感情の動物」であるが同時に「冷静の動物」でもある。

感情は火、冷静は水。

燃え盛った火は水で消える。

水を胸に秘めて、燃える前に買い、消える前に売るのがカネ儲けの秘訣なのだが、

それでも「目からうろこのインターネット増田塾」は今日現在8勝2敗、儲け総額は気が遠くなるほどだが、それでも完勝でないのが残念である。

と言うわけで今回の「イラン戦争は買い材料」である。

躊躇なく買い！

何度も言うが、「儲けたければ増田塾！」。

私の小冊子 Vol. 156 お申込みは、<https://www.musrjec.com/>

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。